

つくばイノベーションアリーナ(TIA-nano)

～動き出したオープンイノベーションハブ～

ポイント

- 産総研、NIMS、筑波大が中核となったナノテク研究・教育拠点
- 経団連とも連携した産学独に開かれたオープンイノベーション拠点
- 先端ナノテク研究設備・人材が集積する世界的なナノテク研究拠点

ねらい

オープンイノベーションハブに必要な4つの視点（オープンイノベーション、アンダーワンルーフ、技術融合、成果の社会への還元）と日本の強みを活かす3つの仕組み（ものづくりの強み、つくばの強み、公的研究機関プラットフォームの強み）を組み込んだTIA-nanoモデルを実現し、先端ものづくり国家としてのわが国の繁栄と世界的な課題解決を目指しています。そのために、1) 世界的な価値の創造、2) Under One Roofの実現、3) 自立・好循環の実現、4) Win-Win連携網の構築、5) 次世代人材育成の5つの理念に基づいた戦略目標を立て拠点整備を行なっています。

概要

【コア研究領域】

中核3機関が強みを持つ研究領域を6つのコア研究領域として設定。産学官連携研究を強力に推進します。

- ナノエレクトロニクス
- パワーエレクトロニクス
- カーボンナノチューブ
- N-MEMS
- ナノグリーン
- ナノ材料安全評価

【コアインフラ】

＜ナノデバイス実証・評価ファンドリー＞
線幅45/65nmのΦ300mm CMOSライン、SiCパワーデバイス試作・実証・評価施設、Φ200/300mm N-MEMSライン。産学官連携で最先端デバイスの開発を行います。

＜ナノテク共用施設＞

NIMS（国際ナノテクノロジーネットワーク拠点）、産総研（IBECセンター）で最先端ナノ分析・加工設備を広く公開。人材育成トレーニングのコースも用意。

＜ナノテク大学院連携＞

筑波大学、東京理科大学、芝浦工業大学、産総研、NIMSが基盤となり「TIA大学院連携コンソーシアム」を形成。研究拠点と連携した人材育成を行います。

